

病害虫発生情報 1号

平成 23 年 7 月 21 日
丹南農林総合事務所

1. 斑点米カメムシ

水田周辺雑草地におけるカメムシ類の生息密度はカスミカメムシを中心に高くなってきています。これからコシヒカリの出穂期を迎え、斑点米カメムシが水田内へ侵入してきますので、防除徹底をお願いします。

《カメムシ防除の注意点》

(1) 下記の2回の時期に、必ず、薬剤を散布しましょう。

1回目：穂が出揃った頃 + 2回目：1回目の7日後

○粉剤、液剤の散布は、早朝または夕方に、畦畔を含めて防除しましょう！！

(2) スタークル粒剤を散布する場合

○穂が出揃った頃に3cm程度の湛水状態で散布しましょう。

○散布後は落水や掛け流しをしない！！

○粒剤だけでは防除効果が不十分なので、散布7日後にはアルバリン粉剤またはスタークル粉剤を必ず散布しましょう！！

(3) 3回目の防除も検討しましょう。

○周辺に草刈を行っていない麦跡圃場や休耕田がある圃場や例年斑点米の多い圃場、カメムシが多発する圃場では、3回目の防除も行いましょう。



表1. 収穫7日前まで使用できる薬剤

| 薬剤名 | 使用量 (kg/10a) | 総使用回数 |
|-----------------|--------------|-------|
| エルサンバッサ粉剤 20D L | 4 kg | 3回以内 |
| トレボン粉剤DL | 4 kg | 3回以内 |
| Mr. ジョーカー粉剤DL | 4 kg | 2回以内 |
| スタークル粉剤DL | 3 kg | 3回以内 |
| アルバリン粉剤DL | 3 kg | 3回以内 |

2. フタオビコヤガ (イネアオムシ)

フタオビコヤガ (イネアオムシ) の発生が近年多くなってきており、今年も中山間地を中心に多発しています。葉色の濃い水田や、山沿いの水田では被害が集中する場合がありますので、発生状況を確認して防除を行いましょう。



図1 成虫

図2 シャクトリ歩行する幼虫

図3 初期の被害葉

図4 食害を受けたイネと幼虫

表2. フタオビコヤガの防除薬剤

| 薬剤名 | 使用倍数 | 使用量(10aあたり) | 収穫前日数 | 使用回数 |
|-----------|------------|-------------|-------|------|
| スミチオン乳剤 | 2000~4000倍 | 60~150L | 21日前 | 2回 |
| ディブテックス乳剤 | 2000倍 | 60~150L | 14日前 | 4回 |
| パダン粉剤DL | | 3~4kg | 21日前 | 6回 |